

男女共同参画標語
最優秀賞
「男女とも 歩みあわせて
輝くとりで」
宮下拓也さん 藤代南中学校(当時)

31号

平成24年3月1日発行

風



優秀賞
学生の部
「同じだね 働く力と 支える心」
「認め愛 支え愛 補い愛」
「男女の手 大きさ違えど 価値は同じ」
一般の部
「女の手男の手 合せた未来 取手から」
「役割を 担う意欲と 任せるゆとり」

取手市の男女共同参画が 変わります！

～男女共同参画計画の見直しについて～

「第2次取手市男女共同参画計画」が、平成19年に策定されたから5年の節目を迎え、もっと市民のみなさまに寄り添い取手市の男女共同参画を支える計画になるよう、今回見直しが行われました。その概要についてお知らせします。

ご存知ですか？ 男女共同参画計画

取手市の男女共同参画計画は、家庭、職場、地域、教育など、さまざまな分野での性別による差別や固定観念・慣習を解消して、男女が互いを尊重しつつ、自らの意思でいきいきと暮らせる社会を目指して、平成12年3月に策定されました。その後、平成17年1月に「取手市男女共同参画推進条例」が制定され、男女共同参画社会の実現に向けた施策方針が明らかになったことを受け、平成19年3月に「第2次取手市男女共同参画計画」が策定されました。

各施策については、担当課を明記して責任の所在を明らかにし、たうえで、毎年の進捗状況や実績の評価をしています。また、男女共同参画の推進状況を具体的な数値で把握するために、10項目の成果指標を示し、計画の実効性を点検する仕組みを設けています。

第2次計画の特徴

第2次男女共同参画計画は、条例の基本理念を具現化することを目的に、市、市民、事業者

計画見直しの目的

第2次男女共同参画計画の間は、平成19年度から平成28年度までの10年間でとされています。

第2次男女共同参画計画の体系

条例の基本理念

計画の基本目標

1. 男女の人権が尊重される社会の確立
2. あらゆる分野への男女共同参画を確立するための環境整備
3. 多様な働き方を可能にするための環境の整備
4. 健康で安心できる生活環境の整備

各基本目標の主要課題

各主要課題に対する施策 (全135施策)

そのあいだ計画の進行を管理するため、年次報告書が毎年作成、公表されています。そのなかでは、施策や事業ごとの進捗具合や実績、評価などを明らかにするとともに、目標達成にむけた課題の形成や、意識啓発が行われていました。

しかし、10年の年月は決して短くはありません。社会は刻々と変化し、私たちが取り巻く状況も様々に影響を受けています。当然ながら、この計画もこういった環境変化に対応していかなくてはなりません。

平成24年度は、計画策定から5年を経過し、10年計画の後期が始まる年度です。この節目の年に、より現実的で実効性のある計画として新たなステージを迎えるため、市では市民で構成する男女共同参画審議会が中心となり、平成23年度早々から一年がかりで計画の見直しをはじめました。

見直しのポイント

今回の見直しでは、過去5年間の進捗状況を検証した上で、平成22年に閣議決定された国の第3次男女共同参画基本計画や、平成23年度に策定された茨城県の「いきいきいばらきハーモニープラン」などを踏まえつつ、施策の内容と成果指標について検討を行いました。

計画の見直しは、男女共同参画社会への基本的な考え方を維持しつつ、個々の施策内容や成果指標についてを重点的に行いました。見直しのポイントは次の通りです。

- 施策の見直し
- ・ 必要性、関連性による加除
- ・ 内容が重複する施策の整理
- ・ 内容を具体的にし、目的を明確にする



「生きた歴史」を後世に伝える

取手市女性の歴史とこれからを考える会

「過去の困難な時代を生き抜いてきた方々の努力や活躍があるからこそ、今の私たちは便利で幸福な生活ができています」ということを、ともすれば私たちは忘れてがちになってしまいます。市内にも数多くいらっしゃる、そんな激動の時代を生き抜いてきた高齢者の方々にお会いして当時のお話を丹念に聞き、冊子として後世に残す、そんな活動をしている団体があります。今回は、「取手市女性の歴史とこれからを考える会」(会長：濱口啓子さん 会員6名)の定例会に訪問し、その活動の状況などを伺いました。

女性の歴史を 考える活動を

会は、平成10年に、市の女性政策室(当時)のセミナー受講生などが集まり「取手市で明治・大正・昭和の激動の時代を生き抜いてきた女性たちの生活習慣や生き方、考え方を聞き取り、取手の女性史として収録して次世代へ伝えること。そしてそれらの女性史を振り返ること」を主な目的として発足し、約14年間にわたり活動を行っています。

今までの主な活動はその目的のとおり、市内にお住まいの高齢者の方々から会員が直接お話を聞いて、できる限り話し手の言葉のままにまとめた聞き書き集「川面ひかりて」の発刊です。活動開始から2年後の平成12年に第一集を、続いて平成15年には第二集を発刊し、今回、平成23年11月に『女性が織りなす取手市の歴史 川面ひかりて』第三集を発刊しました。

第一集から第三集までに、市内の42名もの明治・大正・昭和の生まれの方々から、たくさんのお話を聞き集めたそうです。話してくださった皆様は、困難な時代をたくましくしなやかに生き、今日を築き上げてこられた方々ですが、すぐに話してもらえたわけではありませんでした。根気よく交渉をして信頼関係を築き上げ、やっと話していただくことが出来たのだそうです。

多くの方からお話を聞くなかで、たくさんの方に残るエピソードや言葉があるそうですが、「選挙権をもらって初めて投票したときに、初めて人間として認められたと思った」との言葉は特に忘れられないことの一つ、と会員の方がおっしゃっていました。

女性のこれからを 考える活動へ



更には、話して下さった方からは、「自分のお話載った『川面ひかりて』を読んで、『自分が生きてきた証ができた』と、ご本人だけではなく家族の方にも非常に喜んでいただいているそうです。そうした感想をいただけることが、会員みんなの励みにもなっています。また、第一集、第二集を市内の高校生にも読んでもらうといった活動も、そこで集めた貴重な意見や感想は、さらに「女性の歴史とこれからを考える」ために活用していきたい、とのことでした。

会ではこうした活動以外にも、女性史研究者による講演会の開催や、各地での女性史に関する講演会への参加のほか、「取手市女と男ともに輝くとりで集い」実行委員会への参画など、多岐にわたる活動を続けています。これらが認められ、平成17年度には茨城県の「男と女・ハーモニー功労賞」を受賞しています。今のところ「川面ひかりて」の続刊の予定はないそうですが、若い世代の後継者を育成しながら活動が継続していきたいとのことでした。

取手市女性の歴史とこれからを考える会が作成した「川面ひかりて」は、市内の図書館でご覧いただけます。また、「欲しい！」という方にはお分けしておりますので、会長の濱口さん(74-0619)まで、ぜひご連絡ください。